

助成年度：平成13年度

[所属] 琉球大学 理学部

[役職] 助教授

[氏名] 伊澤 雅子 (他計5名)

[課題]

人間環境を利用する野生動物の保全に関する研究

－熱帯・亜熱帯域に生息するオオコウモリとヒヨケザルの生態と人間生活との関わり－

[内容]

本研究では沖縄のオリオオコウモリとインドネシアの夜行性哺乳類を対象としてその生態と人間生活との関わりに関する研究を行った。

1. オリオオコウモリについては、食性、採餌行動と植物のフェノロジーとの関係、ヤシへの絡まり事故死の3項目について調査を行った。

他のオオコウモリ類と比べて、オリオオコウモリは植栽木や園芸樹種を含む幅広い植物種を餌として利用していることがわかった。さらに、オオコウモリの個体数の季節変化は利用可能な餌植物の株数、特にカジマルなどイチジク属の種とデイゴやトックリキワタの開花量に関係していること、さらにそれはそれぞれの植物種のフェノロジーの特性と密接な関係がある点などが明らかになった。また、オオコウモリの死亡要因としてヤシでの絡まり事故死があげられ、それは移入種であるダイオウヤシの植栽により起こっていることもわかった。

2. ジャワ島西部のヤシ農園において希少種のマレーヒヨケザルとコウモリ類の調査を行った。

調査地内のマレーヒヨケザルの餌植物はすべて農園内や集落付近に植栽された有用樹種であった。また、背の高いヤシは、ねぐらとして好適であると考えられ、夜間もココヤシが休息場所および移動経路として利用されていた。ヒヨケザルはヤシ農園と東南アジア特有の生活スタイル“プカランガン”を利用して、人為的環境に進出していることがわかった。また、同地域で確認されたコウモリ類もその大半が、人が植えた栽培植物や人工構造物を利用しており、人の暮らしの中に入り込んで暮らしている野生動物であると考えられた。